

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人生は順逆の連続である その順逆を越える

1. 人生は順逆の連続という。順逆をこえるとは、順境にも逆境にも負けない自分を創るということである。昨年末、NHKテレビで日野原先生のドキュメンタリー番組が放映された。インフルエンザで 39 度の熱がありながら、子供たちとの約束だから、と地方講演に向かわれる姿をテレビは映し出していた。その先生が作られた句がある。
「百歳はゴールでなく関所だよ」
2. 中江藤樹に次の言葉がある
「順境にいても安んじ、逆境にいても安んじ、常に担蕩々として苦しめるところなし。これを真楽というなり。萬の苦を離れて、真楽を得るを学問のめあてとす」。順境の時、人はつい慢心しがちになる。順境のあって傲慢にならず、謙虚に心を落ち着かせる。逆境の時もへこたれず、心が安定している。どんな状況でも心が平らかでゆっくるとし、状況に振り回されない。これを真の楽しみという。
3. 人生を大成させる人は一様に、この要訣を体得した人であろう。森信三先生の残された言葉がある。「思いあがらず、下坐に徹して生きる時、天が君を助けてくれる」。順逆を超える要訣を見事に結晶した一語である。
(参考:「致知」2012 年 4 月号)

経営者のための経済学

経済成長至上主義を再考すべき

ケネス・ロゴフ (ハーバード大学教授)

1. 現代のミクロ経済学は、迅速かつ安定的な経済成長を、政策の究極的な目標にしているように思える。こうした考え方は、政策論議や各国中央銀行の理事会、さらに新聞の 1 面の見出しでも見られる。だが、未来永劫、経済成長が主要な社会目標であるとみなすのは、理にかなっていないのだろうか。
2. 標準的な経済統計を批判する多くの人々は、国家の福祉を測る尺度を出生時平均余命や識字率などにも広げるべきだとしている。こうした評価方法を採用したものとしては、国連人間開発報告書や、フランス政府が主導した経済パフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会がある。尺度の範囲が狭いこと以上に深刻な問題がある。それは現代の経済成長理論において、人間が根本的に社会的な動物である点が十分に強調されていないことだ。

(参考:「週刊東洋経済」2012 年 1 月 28 日号)

人事・労務について

日本の価値観を世界に普及させる

櫻井 よしこ (ジャーナリスト)

1. 厚生労働省が 1 月 30 日に発表した「将来人口推計」では、日本の総人口は 50 年後の 2060 年に 8674 万人になる。半世紀で人口が 4100 万人以上減少する。この寂しい風景は、しかし、視点を変えればまったく変わってくる。高齢国家とは、経験を積み一生まじめに生きてきた人びとが多数存在する経験知と良識の固まりなのだ。であれば、彼らの力を活用し、彼らに社会や国の運営に貢献してもらおうのがよい。
2. 私たちは、昨年の東日本大震災をきっかけに、日本人がどれだけ誠実な人々であったかを、改めて認識した。日本としての大事な価値観を再認識したのだ。この価値観は、戦後日本の主流だった経済成長至上の価値観とは異なる。この価値の再認識こそが日本の未来を切り開く根源的な力になる。日本の価値を生かした国のあり方を日本型モデルとしてアジアにも世界にも普及させることが、日本の真の再生であり、課題である。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2012 年 2 月 11 日号)

古典に学ぶ

緻密すぎる教育は鉢植えの木のような人を増やす

「現今の教育は、修学の順序といい、教育の仕方といい、至極緻密であるが、成業の人を視ると鉢植えの樹木を見るように、枝振りは好いがとかく小規模で、ただ小利にのみ走るといふ弊が見える」

解説: 現代の教育システムは、順序も方法も非常に緻密だが、それで育った人間は、まるで鉢植えの木のようなうだ。枝振りなどの外見はよくても、実際はスケールが小さく、目先の欲に走る欠点がある。

(参考: 渋澤 健「渋沢栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)